

♪うれしいこの夜クリスマス♪

園庭の木々が黄色や赤く染まり始め、きれいな葉っぱの絨毯ができました。

園のシンボルのような銀杏の大木も緑と黄色のグラデーションに変わっていく様は圧巻です。

もうすぐ黄色の葉がいっぱい落ちてきて、葉っぱのベットになったりきれいにまとめて花束にしたり子どもたちを楽しませてくれます。

この季節になると、幼稚園ではクリスマスの歌や制作・劇などイエス様のお誕生をお祝いする準備が始まります。

クリスマスはクリス=イエス マス=ミサの意味でイエスキリストの誕生のお祝いです。

そして今年は2025回目のお誕生日です。(イエス様のお誕生日は確かではなくもっと前ともいわれています) お子さんたちにその話をしてお誕生をお祝いすることを伝えながら「イエス様のお誕生日なのにどうしてみんながプレゼントをもらうの?」と聞くとみんな考え込みます。

一人のお子さんが「今年はイエス様に僕のプレゼントあげる」と本当にかわいいことを伝えてくれました。

でもどうしたら目に見えないイエス様にプレゼントをあげられるのか、また考えることになりました。

なかなか答えはわかりません。「どうしたらイエス様は喜ぶ?」と聞くと「いい子になる」

「みんなでお歌を歌ってあげる」など出てきました。

相手のことを思うことが少しずつできているお子さんたちです。

「じゃあいい子ってどんな子」と聞くと「やさしい子」「ケンカしない子」「助けてあげられる子」などたくさん出てきました。

これこそがイエス様が生まれた意味を知ることになると思いました。

世界中の人が平和になるように、争いのない助け合う世界になることがクリスマスの意味です。生まれた時から人間の罪を背負って十字架につけられることが決まっていたイエス様ですが、誕生は輝かしい宮殿や立派な病院でもありませんでした。

世界で初めてイエス様の誕生を告げられたのは、そのころ仕事としては一番底辺で働いていた羊飼いです。預かったたくさんの羊の世話をする羊飼いは野原で野宿をしていました。そこに天使の大軍が現れ夜空は昼間のように明るくなり、羊飼いたちおおいに恐れしました。

そして、イエス様の誕生を知らせ拌みに行きなさいと告げ「地には平和、も心に適う人にあれ」と歌いました。

そのころ大きな星が現れ、それを遠くの東方で見っていた博士(3人の賢者)たちが、イエス様の誕生を知り家中の物売って、黄金 乳香 没薬 という大変高価な贈り物を持ち、灰を頼りに遠い旅に出かけました。

博士らエルサレムにつきヘロデ王のところに行きますがここでヘロデ王が自分より偉大な王が生まれたことを知り不安を抱き、博士らにイエスを見つけたら帰りに知らせるようにいきました。

博士は聖句「彼らが王の言葉話聞いて出かけると、当方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。」マタイによる福音書2章9節

イエス様に無事に会うことができた博士たちはその晩夢の中で天使にヘロデ王のところによってはいけないことを知らされ、別の道で帰っていきました。